

瀬目トンネルの線形計画に当っては、

L55ブロック地すべりとの関連を

考慮した下記の経緯を有する。

なお、以下で示す「分科会」とは、

ダム基礎地質検討委員会
川辺川ダム分科会
(委員長 渡 正亮 日本地すべり学会 元会長)

を指す。

平成元年度 第1回分科会 (H1.10.13)

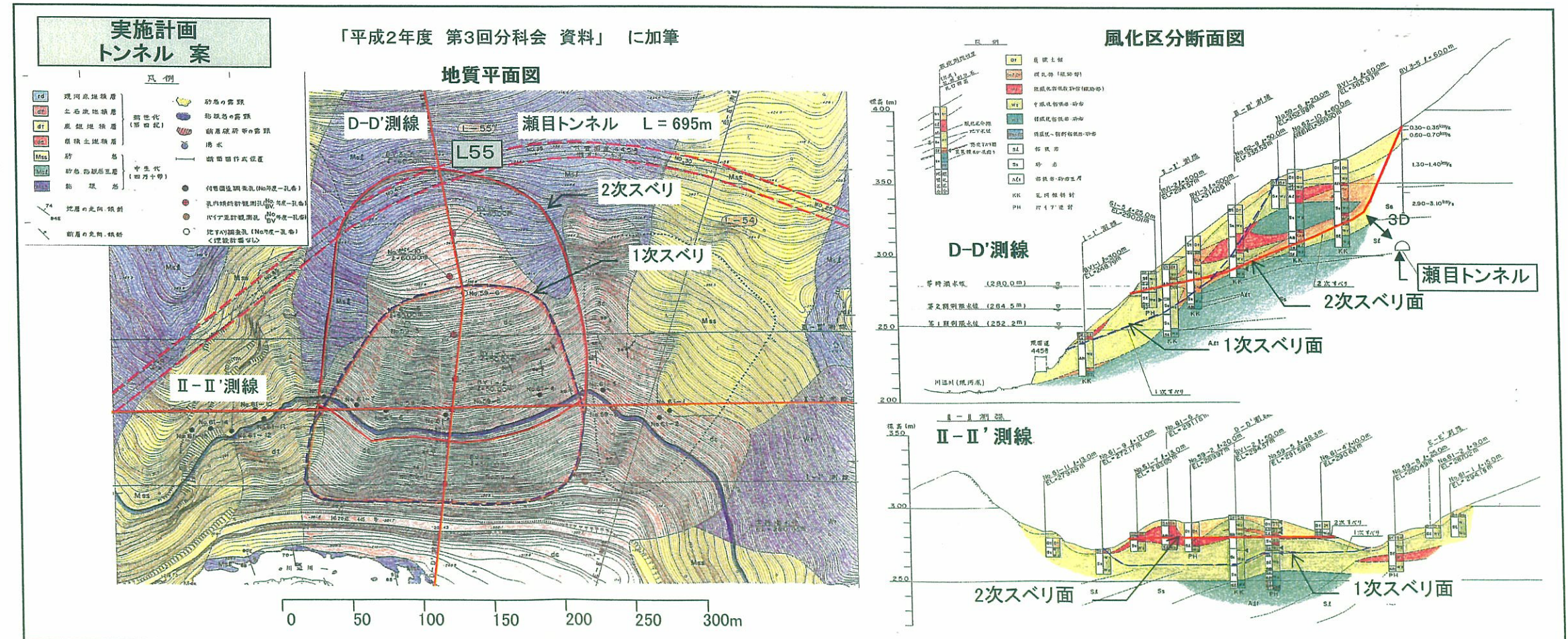
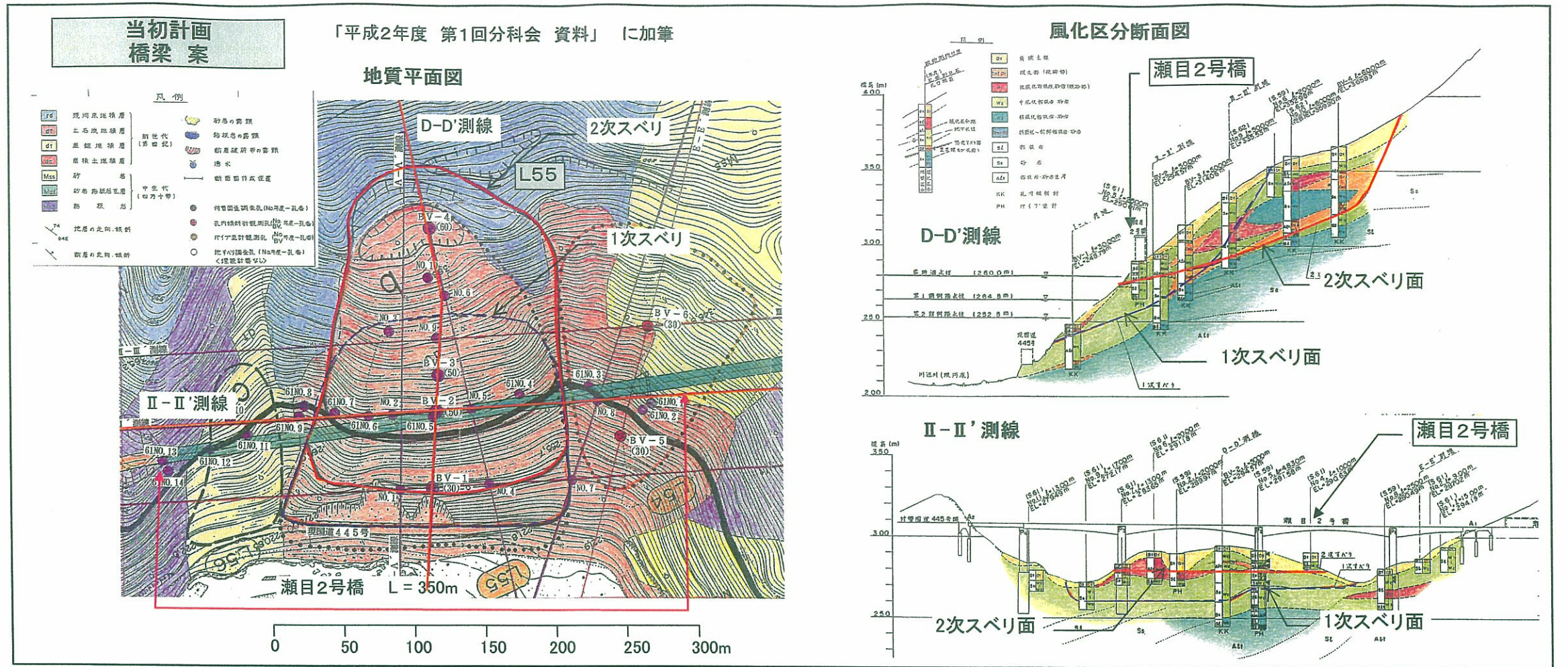
- ・地すべり規模が大きいため、付替国道検討に当っては慎重に検討する必要あり

地すべり調査実施

平成2年度 第1回分科会 (H2.8.1)

- ・2次スベリ面は現在の想定で良い。
- ・1次スベリ存在の可能性は低い。
- ・地すべりの規模などを考慮し、トンネル案が提案された。
この場合、トンネル線形はスベリ面から3D以上離す必要あり。

迂回トンネル案検討実施



瀬目トンネル 計画経緯